



# 倉浜衛生組合を訪ねて〜ごみのそれから・パート2〜

エプロン通信員 神賀 郷子

二市一町（沖縄市・宜野湾市・北谷町）のごみが集まる倉浜衛生組合は、沖縄市倉敷にあり、紙・ペットボトル・草木以外の全ての家庭ごみは、ここに搬入されています。

燃やすごみは四基ある焼却炉で焼却されます。焼却炉は、日曜日以外毎日二十四時間稼働しており、三交替で常に三人の職員が監視・制御しています。残った灰を埋める最終処分場の底には、灰を通った雨水が地下に浸み込まないよう、ビニールが敷いてあり、底にたまった雨水を吸い上げ、浄化施設でろ過してから河川に放水します。この水も定期的に水質検査が行われ、焼却灰の処分によって河川が汚染されないよう監視されています。

燃やすごみ以外の搬入されたごみは、再資源化するためにここで更に分別されます。粗大ごみは破砕機を用いて分別しますが、びん・缶、そして燃やさないごみは、シルバー人材センターの方が手分別しています。（図参照）

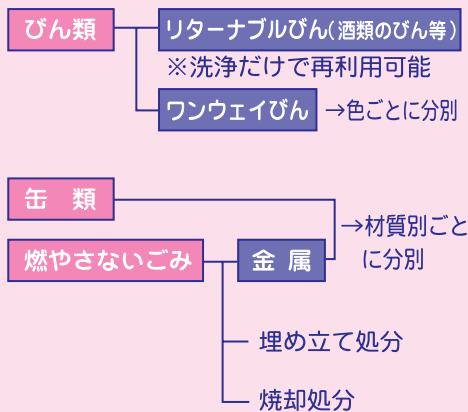
この他、紙・ペットボトルは紙業会社に回収され、草木は堆肥の材料として、うるま市の業者へ搬入されます（木材等の防腐剤処理されたものやその他の混入物があると、堆肥として使えなくなるため、ここでも手作業で取り除かれています）。

大量の資源ごみの分別という作業に加えて、びん等のキャップを一つ一つ

外さなければならぬのは大変なことでしょう。紙や草木の場合も同じだと思います。また、汚れた資源ごみは悪臭を放ち、蠅などが集まります。ふたを取る、洗うといった手間を惜しまず、ごみ出しのルールを守ることで、作業する方の負担や不快は軽減されます。また、資源も最大限に再利用され、環境への負荷も最小限に抑えられます。皆さんのお手元にも昨年四月に配布された「新しいごみの分け方・出し方」があることと思います。もう一度読み返して、どうぞこれからも大切なルールを守ってごみを出していきましょう。

※平成二十二年四月には、灰からスラブを作って再資源化できる新焼却炉と、ペットボトル・紙を再資源化できるリサイクルセンター（仮称）が開設されます。リサイクルセンター内には、二市一町で利用できる工房も予定しています。

## シルバー人材センター 手分別作業フロー図



# 茶 ぐわーゆんたく

57

## 宜野湾の伝説探訪〜普天満宮〜

新しい年が始まりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。この時期、市内の普天満宮は、初詣で賑わいますね。

この普天満宮には、次のような伝説があります。【昔、首里の桃園にとても美しい娘がおり、その姿を人前にはさらさなかつたところがある日、他人に姿を見られてしまい、家から出て行ってしまった。そして普天間の洞窟（現在普天満宮の境内にある）にたどり着き、

でもその由来や歴史には多くのエピソードがあります。皆さんも、地域の歴史や行事を調べてみてはどうですか。宜野湾市には、おもしろい歴史が、まだまだ残っているはずですよ。



テiraガマの入り口(神山・基地内)



普天満宮

「宜野湾市史」への問い合わせ  
教育委員会文化課  
☎八九三―四四三〇